

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十八年二月度 入選句（投稿総数一九九一句・一般投句数五三三句）

特選

弓絞る間合に満つる淑気かな

選者 長野 美代子

養老郡養老町 田中 紫香

新年の稽古始として弓道が行われる。凜とした寒さの中キツと音を立て弓を引き絞る、見定め矢を放つまでの一瞬の刻を淑気と捉えたところが人の心に刺さる句。佳句です。

叩かれて野火向きを代へ飛び出せり

大垣市 村田 通夫

野火と云えば一斉に前進していくかと思えば「叩かれて」「向きを代へ」よく言うことを聞くのですね。此のような句は始めて拝見しました。これは発見です。措辞も素敵です。

故郷を一抱えして冬の虹

揖斐郡揖斐川町 栗野 みねお

春は一雨ごとに暖かくなると申しますが未だ々々寒い日がつづいています。先日伊吹山をすっぽり包み美しい虹でした。「故郷を一抱えして」いいですね。そんな虹くぐつてみたいです。身も心もすつきりする佳句です。

秀逸

伊勢海老の髭のはみ出し祝膳

養老郡養老町 田中 秀子

百年の鯉冬光をひと飲みす

大垣市 酒井 安彦

めんこての凜とした声寒稽古

大垣市 三輪 葉加

背ナさする手の温もりや卵粥

大垣市 松岡 みつ

寒の雨写仏の墨の香りたつ

揖斐郡大野町 藤田 涼子

一条の日矢つかみとり福寿草

大垣市 宮脇 和子

新春に声のはじける部活の児

大垣市 伊藤 鈴子

裂帛の面へ一激寒稽古

大垣市 伊藤 有紀

啓蟄の大地揺るがすシヨベルカー

大垣市 新町 恵子

降る雪にぼんやり灯る川燈台

安八郡神戸町 高橋 日出美

入選

ひと葉づつ地に戻りてや山眠る
移ろへる日に山茶花の零れつぐ
やはらかし山水掬ひ初茜
雨樋の小さき足音寒雀
過疎の村つなぐ木の橋草紅葉
絵双六上りは十万石の城
寒鴉道のあるかに埒へと
投函の底のひびきや冴返る
耕人の黙々こなす田一枚
ここもまた空家こはされ虎落笛

愛知県名古屋市	小松とみゑ
大垣市	神野武彦
大垣市	三輪千芽
不破郡垂井町	富田実郎
大垣市	鶴田信子
三重県桑名市	森美音
大垣市	野村多佳子
大垣市	臼井秀子
大垣市	尾関逸子
大垣市	後藤摩弓

入選

折鶴の上出来不出来も年の暮
杉の木に当たるまで投ぐ雪礫
小魚の藻の間に翳や水温む
野辺の草土を這ひ出し春兆す
料峭や国境の壁厚くなり
朱の鳥居尺余の雪を見据えたり
修験者の喝に火渡り春時雨
曇天の空に一括汽笛鳴り
退職を語らず聞かずおでん鍋
何ひとつ誰ひとり来ぬ追儺かな

養老郡養老町	大霜幸江
大垣市	小林研
大垣市	伊藤有紀
大垣市	早崎美弥子
大垣市	傍島豊子
不破郡垂井町	清水るり
不破郡垂井町	久保田紘義
福岡県久留米市	井上拓音
不破郡垂井町	高木巧美
石川県能美郡	松田文子

選者吟

こまがへる草は石積野面積

美代子